

【UHC フォーラム 2017 公式サイドイベント】

The Future of Health Systems: The Role of data health in the era of the next-generation UHC

2017年12月12日、JICAは、国立国際医療研究センター（NCGM）国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）及びタイ保健省、タイ国民医療保障機構と共催、また厚生労働省に支援を頂き、サイドイベント「The Future of Health Systems: The Role of data health in the era of the next-generation UHC」を開催しました。

イベントでは、UHC達成に向けて、保健医療データの活用がヘルスシステムの改善にどのように貢献しうるか、国際機関や各国の取組みを共有し、会場を交えて議論しました。

はじめに、高崎洋介氏（JICAグローバルヘルスとユニバーサルヘルスカバレッジのためのパートナーシッププロジェクト チーフアドバイザー）が登壇し、高齢化をはじめとする社会情勢の変動を踏まえた次世代型UHCの重要性や、次世代型UHCの達成に必要な要素を説明しました。加えて、現在タイで実施中のJICAプロジェクトでの取組みも紹介しました。

続いて、Netnapis Suchonwanich氏（タイ国民医療保障機構前副長官）が国民中心の保健情報システムを構築するためのタイの取組みについて紹介しました。

最後に、宮田裕章氏（iGHPグローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長）が登壇し、次世代型UHCへの挑戦と展望を説明するとともに、厚生労働省が整備を進めている保健医療情報基盤「PeOPLE（ピープル）」を紹介しました（注1）。



高崎洋介チーフアドバイザー



宮田裕章研究科長

3名の登壇者による発表の後、世界銀行、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、韓国国民健康保険管理公団（NHIS: National Health Insurance Service）からもパネリストを迎え、保健医療データの最適な活用のためのイノベーションや、UHC 達成を阻んでいる現在の保健医療システム課題に対して ICT がどのように貢献しうるか、といったテーマで知見を共有しました。

このイベントは政府関係者や開発援助機関、学会、民間企業、市民団体等から 100 名以上の参加者が集い、参加者とも活発な議論を行いました。



パネルディスカッションの様子



満員の会場

【イベント登壇者】

■開会挨拶

- ・ 國土 典宏 国立国際医療研究センター（NCGM） 理事長
- ・ 鈴木 康裕 厚生労働省 医務技監

■発表者

- ・ 高崎 洋介 JICA グローバルヘルスとユニバーサルヘルスカバレッジのためのパートナーシッププロジェクト チーフアドバイザー
- ・ Netnapi Suchonwanich タイ国民医療保障機構 前副長官
- ・ 宮田 裕章 NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センターグローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長

■閉会挨拶

- ・ 渡部 晃三 JICA 人間開発部保健第二グループ次長

【パネリスト】

- ・ 渋谷 健司 NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長（モデレーター）
- ・ Mickey Chopra 世界銀行保健専門家統括
- ・ Dana Hoving ビル&メリンダ・ゲイツ財団統合サービス局長
- ・ Hee Jin Kang 韓国国民健康保険管理公団（NHIS: National Health Insurance Service） 主任研究員
- ・ Netnapi Suchonwanich 同上
- ・ 宮田 裕章 同上

(注1) PeOPLE (Person centered Open PPlatform for wellbeing) は、患者・国民中心の視点で、個々人の保健医療データを保健医療専門職間で共有し、個人自らも健康管理に役立てることができる保健医療情報基盤として、厚生労働省が整備を進めているもの。